

6月6日
祭壇を築いて祈る
創世記12章1～9節

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

12:4 アブラムは【主】がお告げになったとおりに出かけた。ロトも彼といっしょに出かけた。アブラムがハランを出たときは、七十五歳であった。12:5 アブラムは妻のサライと、おいのロトと、彼らが得たすべての財産と、ハランで加えられた人々を伴い、カナンの地に行こうとして出発した。こうして彼らはカナンの地に入った。12:6 アブラムはその地を通って行き、シェケムの場、モレの櫟の木のところまで来た。当時、その地にはカナン人がいた。

12:7 そのころ、【主】がアブラムに現れ、そして「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。12:8 彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は【主】のため、そこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った。12:9 それから、アブラムはなおも進んで、ネゲブのほうへと旅を続けた。

先週から
アブラハムの生涯と信仰を
学んでいます。
アブラハムは聖書の中で
最も？重要人物

マタイ1章1節
始めて聖書を読む人が
最初に読むところ。
アブラハムの子、ダビデの子
イエスキリストの系図
新約聖書の最初の登場人物

アブラハムはBC2000年頃に実在した人物。

カルデアのウルで父テラ、親族と一緒に生活。神様の召しでカランまでいく。そこで父テラは死亡。アブラハム75歳の時生まれ故郷を離れ、父の家を離れて、わたしの示す地に生きなさい、との神様からの召しにしたがって、行き先の知らされないままカナンの方面に旅立ちました。

なぜアブラハムは旅立ったのか。

アダムから10代目がノア、

ノアの時代は墮落して罪が蔓延。

ノアから10代目、アブラハムの父、

テラの時代、神の民が偶像に仕えるようになってしまっていました。

神の民が神の民としての使命に生きるために、アブラハムを召し出しました。アブラハムは、先祖の土地を離れ、親の家を離れ、偶像を離れて本当の神様の民となるため、行く先を知らないまま、神様に導かれて旅立ちました。

アブラハムの行ったこと。

- ①神様に召されて出て行った
- ②この地を与えると言うみ声を聞いた
- ③この地を御心の地と信じて
祭壇を築いて祈る
- ④そこに天幕を張って生活を始めた

ヘブル書11章8～9節

11:8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。

アブラハムは
神様に召されて出て行きました。
召されて歩む、召されて行動する。
日本では「召されて生きる」
概念が乏しい。
それは生ける神様の概念が
乏しいからである。

神様に召されて行動するとは？

called by God

仕事を現す英語

Business, Job, Occupation

Vocation, Calling

日本語で「仕事」のニュアンスは何か。

仕事

仕 つかえる

事 つかえる

殿様に仕える、主人に仕える

会社に仕える

私たちの行動の動機

- ①自分がしたいからする
- ②人が命令、依頼したからする
- ③みんながしているからする
- +
- ④神様に召されて、導かれてする

①自分がしたいからする
①成功すればうぬぼれる
失敗すれば自分を責める

②人が命令、依頼したからする

自発性があまりない
成功しても自分の手柄にならない
失敗すれば人のせいにする

③みんながしているからする
人目を気にしながらする
成功したいモチベーションが湧かない
失敗しても自分で責任をとらない

④神様から召されて行う
成功すれば神様に感謝
失敗するとき、神様に祈る
祈ることにより
神様の御心を知る
それにより成長する

神様に召されて、導かれて

就職

結婚

大きな決断

神様は私たち一人一人に

計画を持っておられる

御心を、導きを求めつつ生きる

アブラハムは主が告げられた通りに
出て行った。

わたしは、あなたの子孫にこの地を
与える。

そこを御心の地と信じた。

アブラハムはそこに祭壇を築いた。
決心の祈り、感謝の祈りをささげた。

そこは
カナン人が住んでいた。
モレの檜の木之所
カナン人の偶像崇拜之所
他人がすでに居住している、
決して美しい、魅力的な
約束の地といえる所ではない

でも神様はこの地を
約束の地、御心の地、定住の場として与
えると言われた。

ここに住んで神の栄光を現しなさい。

アブラハムはもっと魅力的な
エデンの園のような所を想像していたかもし
れない。

でもそこにはカナン人が住み、
モレの檜の木の下で偶像崇拝をしている
所を神様から与えられた。

そこに主のために祭壇を築きました。

ここが主の御心の所、

主に仕える所、

と受け止め信じて

祭壇を築いて、いけにえの動物を

ささげました。

献身の証しです。

ここが御心の土地、場、と受け止めると、

そこへの献身を現しました

カナン人が住んでいる。

モレの櫟の木の下で

彼らは彼らの宗教を営んでいる。

そこを譲りの場、導きの場、祝福を受ける
場と信じて祭壇を築き礼拝をしました。

シェケムからベテルとアイの間にあるところで
定住をすることになった。

そこに生活の場として
天幕を張りました。

そこに祭壇を築いて主の御名によって祈り
ました。

祭壇と天幕

天幕を張ることはそこで日常生活を行うことであり、神様の栄光を現す、神様の証しをする生活を行うことであります。そこに祭壇を築くことは神様に礼拝をささげ、日常生活の守りと祝福を祈ります。地域のカナンの人々に証しのある生活ができるように祈ることでもあります。

私たちに与えられている生活

家庭生活

地域での生活

職場での生活

教会での生活

これらを主の導きの場、主が召してくださった場、
主が呼んでくださった、招いてくださった所と受け止めて
信じる。

そこで祭壇を築いて
御名によってお祈りをする。

祭壇の上で子羊を全焼のいけにえとして
ささげるように、
召された場に身をささげ、献身していく。

天幕を張って日常生活を始める。

日常生活を通して

主を証ししていく。

特別なコンサートや伝道集会だけが

伝道の場所ではない。

私たちの日常生活を周りの人々がみておられるので証しのある生活をする。

天幕を張って生活する。

モレの檜の木の下で偶像のお祭りがある。
カナン人がカナンの宗教、文化で生きている。

そんな環境の中で、土地を耕す、イバラ、
雑草をぬいて、福音の恵みの生活をして
神様に栄光をお返ししていく。